

研究区分	教員特別研究推進（教育推進）
------	----------------

研究テーマ	模擬患者（Simulated Patient: SP）を活用した歯科衛生士のコミュニケーション教育の継続的学習方略の比較検討				
研究組織	代 表 者	所属・職名	短期大学部 歯科衛生学科 ・准教授	氏名	長谷 由紀子
	研究協力者	所属・職名	日本医学教育学会 学会国際 化委員会・委員	氏名	吉田 登志子
		所属・職名	岡山 SP 研究会・理事	氏名	前田 純子
		所属・職名	岡山 SP 研究会・理事	氏名	平本 由美子
	発 表 者	所属・職名	短期大学部 歯科衛生学科 ・准教授	氏名	長谷 由紀子

講演題目
模擬患者（Simulated Patient: SP）を活用した歯科衛生士のコミュニケーション教育の学習効果
研究の目的、成果及び今後の展望
【背景と目的】患者-医療者間、医療チーム内の人間関係を基盤とする医療において、コミュニケーション能力の向上は不可欠である。本研究では、その教育方法として、模擬患者(Simulated Patient: SP)参加型シミュレーション教育を歯科衛生学生に対して導入し、その学習による学生の認識変化を分析し、その学習効果について検討した。 【方法と結果】2025 年度歯科衛生学科 2 年生 40 名を対象に、連続した 3 限(90 分×3)で講義と演習を組み合わせた SP 参加型教育を実施した。具体的には、医療コミュニケーションの技法や初診時の医療面接における質問項目に関する講義と、その後 SP とあるいは学生同士で初診時の医療面接のロールプレイと振り返りセッションで構成される演習を実施した。演習は 5～6 人のグループで 7 回(SP とのロールプレイを内 2 回)行い、学生は、歯科衛生士役、患者役、観察者役の役割を各 1 回以上担うこととした。講義および振り返りセッション終了後に学生が記載した振り返り記録の記載内容を、学生の認識変化の視点から本教育の学習効果について質的に分析した。学生は歯科衛生士役のロールプレイで、あいづちや繰り返しなどの傾聴する姿勢や患者が理解しやすい言葉や説明の工夫を試みていた。また、患者役では歯科衛生士が患者の考えや想いに共感する姿勢を表現することで、患者が信頼感や安心感を得て話しやすくなり、患者が安心して治療を受けられる環境が整い、患者の治療に対するモチベーションの向上に繋がることを実感していた。さらに、観察者では、自分だったらどうするか、他者の演習から見習う点など客観的な視点からの気づきもあった。振り返りセッションの他者のフィードバックによって、自らのコミュニケーションの癖、良い点や改善すべき点といった特徴を自覚することができ、他者のフィードバックの重要性を実感していた。学生は授業を通して、医療面接は単なる情報収集ではなく、患者の話に耳を傾け受け止め、お互いに理解し、信頼関係を構築するコミュニケーションの一環として捉えるべきであると認識していた。 【今後の展望】今回の学習では、学生が歯科衛生士役、患者役、観察者の 3 観点からロールプレイを実践したことで学生自身の気づきが幅広く学びも深くなった。また、リアリティのある SP とのロールプレイと SP から直接のフィードバックによる振り返りからの気づきによる学習効果はさらに高い。今回は人的・時間的資源の制限により、学生全員が SP とのロールプレイを実施できなかったが、今後は全学生に学習効果が高い SP とのロールプレイを実践したい。また、学習段階が上がれば、その学習段階で学ぶことも高度化していくため、経時的に SP 参加型シミュレーション教育を実施し、学生自身がコミュニケーション能力の向上を確認・自覚できる学習環境を整備していきたい。